

社会科学習指導本時案

授業者 中山 和幸

日時：平成30年10月27日（土）第1校時（9：30～10：15）

対象：第4学年A組 27人

場所：4年A組教室

本時の主張点	学習過程において働く社会的な見方・考え方を想定し、それらが働くように工夫することで省察性を働かせながら、子どもが探究することができる。
--------	---

1. 本時について

本時は、第一・二次の学習において、「加太の鯛が特産物である理由」について社会的な見方・考え方を働かせながら考察を繰り返し、その理由を明らかにした子どもたちが、前時に見出した「このままでは、加太の鯛が特産物じゃなくなってしまうかも。どうしよう？」という問題について考え、解決策を探る。第一・二次の「考察」で得た知識を総動員して、問題解決に向かう子どもの姿を引き出したい。また、問題解決に向けて、自分たちが実際にどのように社会に働きかけていくのか、よりよい社会を求め、自分たちなりにできることを「構想」する姿も引き出したい。

2. 本時における探究的な学びと省察性の働き

本時における探究的な学びは、「加太の鯛がこれからも特産物であり続ける社会を構想し、4年生なりに自分たちの生き方・在り方にまで迫り始める」過程である。第一・二次で「加太の鯛が特産物である理由」について、「自然条件」及び「人々の働き」の視点から明らかにしてきた子どもたちは、「加太の鯛と人々の関わり」について知識を得るだけではなく、鯛や加太の人々に対して、愛着や誇りをもつだろう。「加太の鯛はこれからも加太の特産物であり続けると同時に加太の人々の誇りであってほしい。」このような気持ちが探究の原動力となり、「知名度の低さ」、「需要の低下」、「漁獲量の減少」など加太の鯛と人々を取り巻く様々な問題を解決するよりよい方法について、仲間と協働し、知恵を出し合う展開を想定している。さて、ここで重要なのが、「よりよい方法かどうか」を省察しながら、知恵を出し合ったり、選択・判断したりすることである。「持続可能かどうか」、「実現可能かどうか」などの見方・考え方を働かせながら、よりよい方法を出し合い、選択・判断することで、社会の現実に即した未来志向の学びとなり、子どもたちの探究の質が高まることを期待している。

3. 探究的な学びを支える授業のしかけ

本時における子どもたちが探究的に学ぶためのしかけについては、特に省察性を促進するためのしかけを重視している。上述したように、省察性の働きが「探究の質を高める」と考えるからである。子どもたちが自らの探究（問題解決）をモニタリングし、コントロール（調整・改善）していくことが省察性が働いている状態であると考え、モニタリングやコントロールを行うための視点が大切になる。その視点こそが、「社会的な見方・考え方」である。「持続可能な見方・考え方」を働かせる子どもは、

「それって続けることができるの？」と自身や仲間に関し、「実現可能な見方・考え方」を働かせる子どもは、「それって、本当にできるの？」と自身や仲間に関うだろう。子どもたちが、これらの見方・考え方を働かせることができるような環境設定を行うことで、子どもたちが自ら省察し、探究の質を高めながら学習する姿を期待している。

4. 育みたい資質・能力

探究力	省察性
・ 既存の知識を総動員し、関連付けながらよりよく問題解決をする力（問題解決力）	・ 社会的な見方・考え方を働かせながら、問題解決を調整・改善する力 (問題解決力を支える省察性)

5. 本時の目標

- ・ 既存の知識や仲間の考えを関連付け、問題に対する持続可能な解決策を考え出し、よりよい方法を選択・判断することができる。

6. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 前時までに学習したことを想起して、本時の学習問題について確認し、各々の考えを表出する。</p> <p>2. 表出した考えを全体で吟味する。</p> <p>(1) それぞれの考えの意味を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p><鯛を取り巻く問題></p> <p>知名度の低さ 需要低下 漁獲量の減少</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>○加太の鯛をPRする活動 ○自然を守る活動</p> <p>○魚を獲る時のルールやマナーづくり</p> </div> <p>(2) 社会的な見方・考え方を働かせ、よりよい方法を吟味する。</p> <p>3. 学びを振り返り、自覚化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自然環境を守り、魚の取り方やPRを考えた持続可能な「めでたいプラン」をみんなでやっていく。 ○ 「めでたいプラン」を加太漁協の人に見てもらい、さらによりよいプランにしていきたいな。どうやって伝えたらよいだろう？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の問題意識を子どもに語らせ、確認する。 ・ 全員がホワイトボードに各々の考えを表出することでアクティブな雰囲気をつくる。 ・ 表出する際には、端的にまとめたものを表出させ、お互いの考えを自由に聴き合う時間を確保する。 ・ 鯛を取り巻く問題を可視化し、問題に対する解決策を考えることができるようにする。 ・ Tチャートを使い、「P:Problem(問題)」と「S:Solution(解決)」を分けて整理しながら板書にまとめることで、子どもたちの思考の整理を助ける。 ・ 社会的な見方・考え方を働かせて吟味している子どもを価値づける。 ・ 学びを総合するために、「めでたいプラン」について文章化・図式化してまとめる。 思 既存の知識や仲間の考えを関連付け、問題に対する持続可能な解決策を考え出し、よりよい方法を選択・判断することができる。 ・ 次時への見通しを持たせるために、次の時間は「さらによりよいプランにするためにどうしたい？」と問う。